

産育習俗資料

春日井 真 英

Data on Birth-rituals called Hashikosi or Hashiwatari,
which range over Kitashitara District.

Shinei KASUGAI

There are many kinds of rituals, when man grows up. This article or data is not on such a kind of general life rituals of Japanese, but here in this paper Kasugai tries to give the informations on the birth rituals, which are named 橋わたり (Hashiwatari) or 橋こし (Hashikoshi) (Crossing over a bridge or Going over a bridge). This rite is not so popular, it is only known to the people, who live in Kitashitara district in northern part of Aichi-prefecture, this area is very close to Shizuoka and Nagano-prefectures. This rite is not so popular to us and I knew it from an old lady simply by chance. She is now more than eighty-years old, and she told me about the rituals when she got a grandchildren. She told that they should visit UJIGAMI=氏神 (shrine = 神社) after child-birth (as Omiyamairi = お宮詣), at that time they should choose the way to shrine, which passes over a stream, the family should pass through a bridge at that time. At the bridge they should carry out some ceremony. They offer *washed-rice, sake, salt* and some *money* at the both foot of the bridge for two-times on both side, then they cross over the bridge and can visit shrine, but on the way home they shouldn't pass the same bridge. This information interested me very much and so I tried to gather the materials on this kind of rituals in this district. Of course the rituals have many variant, and it differs to each village and family. On details see Kasugai's another two articles on the "Birth-rituals which crossover a stream."¹ In these two articles Kasugai tried to find out the geographical distribution of similar rituals and the variants.

And here in this paper Kasugai tries to show the birth rituals, named Hashiwatari or rituals which relate to water, have very old traditions and are more widely distributed than in my previous article.

1. Shin-ei Kasugai, A birthrituals, which crossover a stream. Shakaikagaku-kenkyu vol 19-1. (ed) The Institute of Social Science Research of Chukyou University, Nagoya, Japan 1998
Shin-ei Kasugai, A birthrituals, which crossover a stream. Shakaikagaku-kenkyu. vol 19-2. 1999

春日井はこれまで愛知県北設楽郡内に存続している「橋渡し」または「橋越し」といわれる産育習俗の分布について調査をしてきた。その成果はすでに中京大学の社会科学研究所紀要で公表している⁽¹⁾。これらの調査研究を通して産育と「水」の関わりが意外に広く、また深く存在していると考えるにいたり、近辺地域の郷土史、誌類を漁りデータベースを作成してみようと考えたのであるが、なかなか思うように事が進まず苦慮しているところである。しかし、データが膨大になると発表の機会がまた少なくなるおそれがあるため今回これまで集めた資料を提示してみたい。この資料を見る限りにおいて「橋越し」と呼ばれる習俗は西三河（知立周辺）までも存在しており、文献をさらに密に調査してみると内容が大きく変わることも容易に想像できる。ただ、「産育」という問題だけに各地の執筆者が女性の視点でこれらに取り組んでおられたか否かという問題までも生まれ、データそのものがどこまで事実をカバーできているかという根本的な問いすら生じてくることも否定できない。しかし、ここではこれまでの調査がただ愛知県内の一部地域にのみ限定されていた習俗ではなかったことを少しでも知っていただき、この「習俗」がかなりの広がりをもっていることを念頭に置いてさらなる調査を進める発憤材料とさせていただきたいと考えている。確かにここで用いている資料群は、基本的に西三河および静岡、長野の一部図書館で収集できた資料が中心である。それは、北設楽郡内の「産育習俗」の広がりを確認するとともにどれほどこの種の習俗が拡大していたかを知るデータとするつもりであった。しかし、まだ北設楽郡あるいは愛知県全域のデータを網羅できる態勢にないことも認めざるを得ない。つまり、現実的には存在しながらも文献的に存在していないという事例もある。

しかし、これまでの僅かな資料からでも「橋越し」なる行事の分布を見て取ることは容易であり、さらに産まれてきた子供のために人々が様々な儀礼を実践していたことがよくわかる。三歳までは神の子と信じられていたからかもしれないが、あの世とこの世の境を象徴するかのような川、あるいは水辺に対する様々なタブーが顕れてきているのは興味深い。

ここでは特に七つの項目に重点を置いて文献を整理してみた。

1) 産明けの時期、さらに男女の違い。2) 鳥居参り（宮参り）。3) 橋渡し・橋越しに関する記述。4) インノコ、（初宮参りの時に子供の額に鍋墨を塗ってもらったりすること）5) 6) このほか川や井戸に関連する項目を設定してあるが、これは3)の項目とも関連する。また7番に誕生後一年目の行事を記載してみた。これらの項目を通して判明することは産育習俗にはやはり「水」との特別な関わりが存在していることが否定できないことである。資料として現在の状態はまだ地域的に不十分であり、今後さらなる資料の追加が生じてくる事は明白であるが、ここでは入手できた範囲のものを提示するだけにさせていただくことにする。

註

(1) 拙論：橋渡りの儀——愛知県北設楽郡に残る「産育習俗」について——

(A Birthritual, which crossover a stream.) 社会科学研究 第19巻第1号 (通巻第37号)

中京大学社会科学研究所 (発行所 成文堂) 73~100頁 (199頁) B-5 版

拙論：橋渡りの儀 (その2)

——愛知県北設楽郡およびその周辺に残る「産育習俗」について——

社会科学研究 第19巻2号 (通巻38号) 中京大学社会科学研究所 (発行所 成文堂) 15~43pp (227)

1999 B-5 版

産 育 習 俗

No.	資料名	発行年月日	発行	住所	地域	産明け(お宮詣り)		鳥居参り(宮参り)	橋渡し・橋越し	インノコ	川開運	井戸開運	一年目の行事
						男児	女児						
1	安城	1980.3	新編安城市史編さん委員会	愛知県安城市	安城市	33日	34日	姑が実家の母が連れて行った	記述無	記述無	潮のさす川をまたいてはいけ ない	産婦は産後15日 間井戸から水を 汲んではいけない。	記述無
2	新編岡崎市史 史料巻19	S59.9.30	新編岡崎市史編さん委員会	愛知県岡崎市	岡崎市	33日	35日	記述無	産後(33日・35日)は川の橋を渡ってはいけ ない	記述無	記述無	記述無	記述無
2	新編岡崎市史 史料巻19	S59.9.30	新編岡崎市史編さん委員会	愛知県岡崎市	岡崎市(河合地区)	記述無	記述無	記述無	七夜前に橋を渡ってはい けない	記述無	記述無	産婦の井戸の使用 は一週間または、 15日間使用禁止	記述無
2	新編岡崎市史 史料巻19	S59.9.30	新編岡崎市史編さん委員会	愛知県岡崎市	岡崎市(米河内町)	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	おひつを川へおいに 行くことも一週間は 止められている	記述無	記述無
2	新編岡崎市史 史料巻19	S59.9.30	新編岡崎市史編さん委員会	愛知県岡崎市	岡崎市(中町)	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	産婦の井戸の使 用は一週間は使 用禁止	記述無
2	新編岡崎市史 史料巻19	S59.9.30	新編岡崎市史編さん委員会	愛知県岡崎市	岡崎市(矢作北地区)	記述無	記述無	記述無	赤不浄の時川で洗濯や 橋渡りなどをしてはいけ ない。	記述無	記述無	記述無	記述無
2	新編岡崎市史 史料巻19	S59.9.30	新編岡崎市史編さん委員会	愛知県岡崎市	岡崎市(竜泉寺町)	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	産婦の井戸の使 用は一週間は、 15日間使用禁止	記述無
3	刈谷町誌	1973.7	刈谷町誌編纂会	愛知県刈谷市	刈谷市	30日	30日	産児に美服を、はしめ産土神 に詣でる。此時祝として赤飯 や餅を配る。	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無
4	古き佳き 吉良の民 俗	H10.7	十人会	愛知県吉良町	吉良町	32日	33日	婿家へ帰り、宮参りをする。 (大島) 実家ではその日、夕 انس、乳母車、子ども布団、 衣類などを用意し、両親が付 き添って、母と子を嫁ぎ先に 送りどどける。婿家では祝膳 を用意して待つ。	記述無	記述無	産後33日は大 きな川を渡る ことも禁止。 (駿馬は75日、 萩原は33日ま で)	男居出産の場 合は15日間、 女居出産の場 合は12日間井 戸に行っても いけない。(井戸 神様に近づか ないこと、重 いつるべを持た せないという意 味)	記述無

No.	資料名	発行年月日	発行	住所	地域	産明け(お宮詣り)		鳥居参り(宮参り)	橋渡し・橋越し	インコ	川関連	井戸関連	一年目の行事
						男児	女児						
4	古き佳き 吉良の民 俗	H10.7	十人会 愛知県 吉良町	愛知県 吉良町	吉良町 (宇津野)	32日	33日	宮参りの時、お神酒とお金を (おひねり) を包む。	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無
4	古き佳き 吉良の民 俗	H10.7	十人会 愛知県 吉良町	愛知県 吉良町	吉良町 (大島)	32日	33日	子供の晴れ着にお祝いのお金(小額) をつるしをつける。婿家先の神社へ宮 参りに行く。しかし、産婦は行かない。	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無
5	幸田町史	S49.5.4 幸田町合 併40周年 記念発行	愛知県 幸田町 幸田町 史編纂 委員会	愛知県 幸田町	幸田町	33日	33日	産土神社に祖母が里方の親か ら贈られた晴れ着をさせて宮 参りする。寶参(おひねり) 神酒をそなえ、子供には菓子 などを振舞うこともある。	記述無	記述無	記述無	記述無	「誕生祝い」祝い餅を背負っ て立つ子は健康優良児、また この時子供に貰八丈の晴着を きかせ本鷹で馳走する。親が尋ね ると子供が自分の前生を語る。
6	知立市史 下巻	S.54.3.31	愛知県 知立市 知立市教 育委員会	愛知県 知立市	知立市	31日 (まれ に33日)	33日 (まれ に32日)	ほとんどの人は33日に知立神社へ、在 所から贈られた晴れ着で、男児は叔付 き、女児は藍そでで、並か祖父母ある いは在所の母が連れてお参りした。知立 神社へ宮参り後、家の近くの自分の親 戚に子どもを見せに回った人もあった。	記述無	記述無	記述無	産後15日間 は水くみを してはいけ ない。	記述無
6	知立市史 下巻	S.54.3.31	愛知県 知立市 知立市教 育委員会	愛知県 知立市	知立市 (上重原・ 牛田町・八 幡町地区)	31日 (まれ に33日)	33日 (まれ に32日)	氏神様にお参りしたが、中に は知立神社へ連れて行った人 もあつた。	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無
6	知立市史 下巻	S.54.3.31	愛知県 知立市 知立市教 育委員会	愛知県 知立市	知立市 (山屋敷 町・山町 地区)	31日 (まれ に33日)	33日 (まれ に32日)	知立神社へ姑がさい銭(おひ ねり)を紅白の水引にして、 子どもたちの背中に縛り宮参りし た。	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無
6	知立市史 下巻	S.54.3.31	愛知県 知立市 知立市教 育委員会	愛知県 知立市	知立市 (西中 地区)	31日 (まれ に33日)	33日 (まれ に32日)	氏神様に宮参りする時、おひねりとお 菓子を持って行った。お菓子は道行く人 に配り、多くの人にももらってもらうと、そ の子が愛さようかよくなると言っていた。	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無
7	豊田市史 第五巻	S51.4.1	豊田市教 育委員会 豊田市史 編さん専 門委員会	愛知県 豊田市	豊田市	31日	33日	「初宮参り」たいいは氏神様へ行く。 善母神には、氏子のみでなく各町か らも参りに来る。子どもの服装は在所 から贈られた「晴れ着」、すなわち「産 着」を着せて行くことが多く、今でも、 男児は袷付き、女児は振そである。	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無

No.	資料名	発行年月日	発行	住所	地域	産明け(お宮参り)		鳥居参り(宮参り)	橋渡り・橋越し	インコ	川関連	井戸関連	一年目の行事	
						男児	女児							
7	豊田市史 第五巻	S51.4.1	豊田市教育委員会 豊田市史編さん委員会	愛知県 豊田市	豊田市 (喜多町)	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	日明けの(男児 31日、女児33日) まで井戸水を汲 まない。	記述無	
7	豊田市史 第五巻	S51.4.1	豊田市 同上	愛知県 豊田市	豊田市 (貝津町)	110日	110日	「宮参り」には産婦・子ども・しゅうとめ で行き、鳥居先でお神酒をあげ、「百十 日」を過ぎて、拜殿で参る。子どもに は在所で用意された産着を着せて行く。	記述無	記述無	記述無	出産の場合20 日間は井戸水 を飲まない。 (貝津町)	記述無	
7	豊田市史 第五巻	S51.4.1	豊田市 同上	愛知県 豊田市	豊田市 (下市場町)	記述無	記述無	「神様参り」と称す。	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	
7	豊田市史 第五巻	S51.4.1	豊田市 同上	愛知県 豊田市	豊田市 (吉原町)	75日	75日	妹が連れて行き、一昔前は子どもの名 前を書いた紙に、「洗米」(かした米)・ 塩・「さい銭」を持って氏神様へ参った。	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	
7	豊田市史 第五巻	S51.4.1	豊田市 同上	愛知県 豊田市	豊田市 (駕崎町)	33日	33日	父親と祖母(しゅうとめ)が子どもを連 れ、塩を持参してまいてくる。奉納金は 一銭くらい(酒とお茶代)とのこと。	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	
7	豊田市史 第五巻	S51.4.1	豊田市 同上	愛知県 豊田市	豊田市 (寺部町)	記述無	記述無	しゅうとめが子どもを抜き、産婦は神酒と「洗 米」・塩を持っていき、鳥居前でそれを参 る。鳥居の「注連」が横で、それより中には入れ なかった。鳥居前(右側)に大きな石が置いて あり、そこに置いた。お神酒は石に「ぶちける (ふっける)」が塩・「洗米」は捨てる。また一紙に 紙に包んだ「おひねり」にしたさい銭をあげる。 産婦は訪問者に飲ませる羽織だが、留袖の場合は ある。しゅうとめはお参り程度の服装だった。	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	
7	豊田市史 第五巻	S51.4.1	豊田市 同上	愛知県 豊田市	豊田市 (広橋町)	33日	33日	氏神への宮参りは、しゅうとめ・産婦・子ど もで行き、これを「三三日の宮参り」とい う。坂で、産婦を地へ下ろして泣かせ、その存在 を神に知らせる。氏神様にささげたまんじゅ う100粒を唐り道に出会った人に配る。	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無
7	豊田市史 第五巻	S51.4.1	豊田市 同上	愛知県 豊田市	豊田市 (王滝町)	記述無	記述無	お神酒(二合びん入り)、「おこわ」 のおにぎり、お菓子を持ってお参りに 行く。それを、行き会った人に配る。 または途中の家に寄って、食べてもら う。連れて行く人は、平服で行った。	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無

No.	資料名	発行年月日	発行	住所	地域	産明け(お宮詣り)		橋渡り・橋越し	インノコ	川関連	井戸関連	一年目の行事
						男児	女児					
7	豊田市史 第五巻	S51.4.1	豊田市政 育委員会 豊田市史 編さん委 員会	愛知県 豊田市	豊田市 (中金町)	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無
8	豊橋市史	S58.3.31	豊橋市史 編さん委 員会	愛知県 豊橋市	豊橋市	100日	100日	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無
9	中京民俗	S55.7.21	中京大 学郷土 研究会	愛知県 名古屋 市昭和 区八事 本町	的場	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	親類を呼んで祝った。実家では赤飯や寿司を用意した。その時にどの程度歩けるかを見た。初子の場合だけ誕生餅(白餅)を一個背負わせて歩かせた。
10	小原村誌	S39.7.1	小原村誌 編集委員 会	愛知県 西加茂 郡小原 村大草	小原村	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	「たんじゅう」満一年の誕生祝い。一般には家で赤飯を炊いて初う程度であるが、誕生前に歩きだした子には、一升の餅を負わせて駆け歩かせ、後でこの餅をかき切って、近親縁者にくばった所もあった。
11	半田市誌	S46.11.30	愛知県 半田市誌 編さん委 員会	半田市	半田市	33日	33日	記述無	生後7日目に額に紅で二つの印をつけ、嘴れ着を着せる。(インノコ表現無)	記述無	記述無	「誕生祝い」(初誕生) 出生して最初の誕生日に、婚家ではおこわか紅白の餅をつくり親戚へ配る。これを誕生餅という。その返礼に下駄や靴が贈られる。
11	新修半田市誌	H1.11	愛知県 半田市誌 編さん委 員会	愛知県半 田市ケ丘 4丁目7番 地の3半 田弘立 博物館内	半田市	32日	33日	記述無	記述無	記述無	「井戸のぞき」病災災難よけ、カンの虫がおさまると伝えられる。(場所不明)	「誕生祝い」(初誕生) 最初の誕生日を初誕生とよんで、紅白の餅を親戚や知人に配ったこれを誕生餅という。その返礼に下駄や草履靴を送った。
11	新修半田市誌	H1.11	愛知県 半田市誌 編さん委 員会	愛知県半 田市ケ丘 4丁目7番 地の3半 田弘立 博物館内	半田市 (成岩)	32日	33日	記述無	記述無	記述無	記述無	「誕生祝い」(初誕生) 足形の誕生餅をつくって、うろう年は13個、普通の歳は12個配ることに なっていた。

No.	資料名	発行年月日	発行所	住 所	地 域	産 明 け (お宮詣り)		鳥居参り(宮参り)	橋渡し・橋越し	インノコ	川 関 連	井戸 関 連	一年目の行事	
						男児	女児							
11	新修半田市誌	H1.11.	愛知県半田市誌編さん委員会	愛知県半田市扇ヶ丘4丁目7番地の3半田私立幼稚園内	半田市(亀崎)	32日	33日	「宮参り」の帰り、途中で親類へ寄ると、張り子の犬を肩へかけてくれるところもある。	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	
12	碧南市史	S49.4.5	碧南市史編纂会	愛知県碧南市	碧南市	32日	33日	「産土詣」氏神様に無事の生長を祈願する。これを産土詣(うぶすなもうで)と称しているが、氏子入りの意味が深い。	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	
13	三和村誌	S56.5.20	佐藤今朝夫	愛知県幡豆郡三和村	三和村	33日(32日)	33日	出産後33日産児始めに氏神に参拝す、母子不快の場合は延期、男児は32日目に行ふもあり。	記述無	記述無	記述無	記述無	産児出生一週年に当たり婦威知己を招き祝宴を開く、また産児第一の新年を迎える際、里方及親戚男児なれば、破魔弓、女子なれば稚台とする掛飾りを贈る。破魔弓には弓矢政者人形、稚童には毬羽子板其他のものを置列す。	
14	引佐町史	H5.3.31	引佐町	静岡県引佐郡引佐町井伊谷616-5	引佐町	55日	33日	「市参り」赤やめが焼き、母がいつても宮参りに行く。無前まで行つては行けないといつて、鳥居の横にオヒズリ(糞糺)をおいてくる人もある。これを「鳥居参り」といふ。それを近所の子供に伝えて拾ってもらったり、お菓子を与えたりした。この町では橋渡しとお宮へ行く途中にある橋にオヒズリを置く習慣はない。鳥参りをしないで、祭りの時に「初参り」をする所もある。	記述無	記述無	記述無	記述無	初子の場合「誕生餅」といふ一升餅を在所から持ってきて、その餅を子供に背負わす。「力餅」「立ち餅」といふ所もある。この晩は初誕生を祝うご馳走を食べる。以前は誕生日を祝うのはこの時だけで、あとは正月に年とりの祝いをするだけである。	
15	浅羽町史	H10.8.26	浅羽町史編さん委員会	静岡県磐田郡浅羽町浅名1028	浅羽町	33日(40日・50日)	33日(35日)	「鳥居参り」お宮詣りごちまが焼き、初めて氏神様に詣ることをお宮詣り、あるいは初詣りという。「初詣り」は鳥居を渡るものでないといふ、鳥居を過ぎず鳥居の外で詣りませるのを鳥居詣りといわれる。お宮詣りには姑が抱いて行き、鬘繰り上げて来る。子ども母殿は行かないこともある。このとき、お七夜の祝いで母親の実家から贈られた着せ替で行く。	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	初誕生には子供に風呂敷きで包んだ一升の米を背負わせて、親が手を添えてサシキを歩かせる。あるいは、白の中に立たせたりする。また、初いの品として母親の実家からは下駄や靴、オコワや餅が贈られる。さらにこの日、氏神様に詣つたともいう。
15	浅羽町史	H10.8.26	浅羽町史編さん委員会	静岡県磐田郡浅羽町浅名1028	浅羽町(阿山)	記述無	記述無	お宮詣りの時「橋渡し」といふ、橋を一つか所渡つて帰る。なお、橋渡りの實踐は得意に拾つてくることもある。	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	

No.	資料名	発行年月日	発行	住所	地域	産明け(お宮詣り)		鳥居参り(宮参り)	橋渡し・橋越し	インノコ	川関連	井戸関連	一年目の行事	
						男児	女児							
16	佐久間町史	S57.10.1	佐久間町役場	静岡県磐田郡佐久間町	佐久間町	33日	35日	宮参りの際には、今田部落では男の子の場合はカヌ、女の子の場合は婿納などを氏神様におたえた。また11月の霜月祭りに際しても、氏子入りの儀式が行われている。すなわち、霜月祭にもその年に生まれた子供が宮参りをし、神主よりお菓子を受けて、正式の氏子になるのである。このように、二重に氏子入りの儀式が行われている点に特徴がある。	宮参りの途中、「橋の袂に参り」と呼んで、橋の袂にお菓子をあげることも半場部落などでは行っている。	宮参りに行く際、子供のお額には鯛墨をつけたり、犬の字を書いたりする。(インノコ表現無)	記述無	記述無	「ヤシ餅」一升餅をつき、それを籠屋で特別に作ってもらった小さな籠の中に入れて、子供に背負わせる。キビまたはワラで子供のノリを編んで纏る風習も行われていた。また、頭髪を剃ってオチヨボさんにすることも行われていた。	
17	豊岡村史	H5.3.31	豊岡村史編さん委員会	静岡県磐田郡豊岡村下野部48番地	豊岡村	記述無	記述無	豊岡村では鳥居が参るので「オトリマイリ」とか「トリマイリ」という。男女とも生後38日に赤ん坊にお湯を浴びせて、袂が構いお宮に行き鳥居を踏らず鳥居に寛げを供えて参る。このとき、袂の住所から書かれたオボキあるいはオボキ(産書)を着せて行く。オボキの背中にはセメリ(昔守り)といひ五色の縫い取りをし、縫い直しを垂らす。	記述無	記述無	記述無	記述無	誕生日前に赤ん坊には一升餅をしゃわせる。あるいは赤ん坊でも歩けなくても、女の子には紅白、男の子には黄白の重ね餅にして一升餅をしゃわせるともいう。	
17	豊岡村史	H5.3.31	豊岡村史編さん委員会	静岡県磐田郡豊岡村下野部48番地	豊岡村(合代島)	記述無	記述無	鳥居参りの際には、必ず隣家によって、お茶をもらい、赤ん坊の口をお茶で潤らしてから帰す。鳥居参りの前に外出する時にはおしめを額に当てる。	赤ん坊は鳥居参りをするまでは外出してはいけないといひ、橋を渡るには橋の袂に小銭を供えてから渡る。	記述無	記述無	記述無	記述無	
17	豊岡村史	H5.3.31	豊岡村史編さん委員会	静岡県磐田郡豊岡村下野部48番地	豊岡村(万瀬)	記述無	記述無	男児の日、女児38日目に母親が連れていく。お湯を浴びせてから、赤ん坊の頭に「犬」という字を書いて出かける。赤ん坊が氏神さんにお座を向けないようにと、行く際には背負い、帰りは抱いてくる。そして、鳥居の両方に小銭を神めて贈る。	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無
18	福田町史	H11.3.25	福田町史編さん委員会	静岡県磐田郡福田町堀田1567の1	福田町	55日	33日	袂が連れて、ムラの氏神様へお参りに行く。子供の母親もついていくこともある。この日の祝いは住所から贈られる。神社につく中には入らず鳥居のところで「氏子にしておくんなさい」と拜む。	「橋参り」初めて橋を渡る時、橋もとにお菓子を供える。	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無
19	水窪	S43.3.31	水窪町教育委員会	静岡県磐田郡水窪町	水窪町	30日	28日	「初参り実家から贈られた初着を着せて初参りをす。この宮参りは社会的にも氏神に対する氏子入りの意味を強く持ち、村落共同社会の象徴ともいへる氏神に参詣して、結句はその村人の仲間に入つたことを認めてもらう意味を持っている。	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無

No.	資料名	発行年月日	発行	住所	地域	産明け(お宮詣り)		鳥居参り(宮参り)	橋渡し・橋越し	インノコ	川関連	井戸関連	一年目の行事
						男児	女児						
24	御殿場市史	S57.3.27	御殿場市史編さん委員会	静岡県御殿場市	御殿場市(庵原郡)	51日	32日	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無
24	御殿場市史	S57.3.27	御殿場市史編さん委員会	静岡県御殿場市	御殿場市(磐田郡)	55日	33日	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無
24	御殿場市史	S57.3.27	御殿場市史編さん委員会	静岡県御殿場市	御殿場市(高塚地区)	記述無	記述無	鳥居参りの時何も供えない家もある。	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無
24	御殿場市史	S57.3.27	御殿場市史編さん委員会	静岡県御殿場市	御殿場市(富士岡地区)	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	二子では誕生前に歩く、と、豆一升とか餅一升分をショウワせて個人宅まで歩かせる。すると仲人は茶袋と着を祝儀としてくれる風習が今でもある。
24	御殿場市史	S57.3.27	御殿場市史編さん委員会	静岡県御殿場市	島田市	33日	32日	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無
25	大谷誌	S49.2.24	大谷誌編集委員会	静岡県静岡市大谷村	大谷	100日	100日	「宮参り」お誕生の最初の三月には男の子にも女の子にも新しい人形を買ってやる。	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無
26	下岬の民俗一橋原郡御前崎町一	H2.3.31	静岡県教育委員会文化	静岡県静岡市追手町9番6号	御前崎町	33日	33日	「ハツマイリ」お婆さんが抱いて母親がついて駒形神社に行く。子供は拝殿まで参るが、母親は鳥居参りだけする。	記述無	赤ん坊の夜の外出には、まつねにだまされないように鍋口に鍋蓋をつけよといった。	記述無	記述無	初誕生には紅白の餅を誕生祝として焼く。これは近所(同族)や濃い親戚などオデンギョー(餅)を配った家に配る。濃い家には七つ、薄い家には五つくらいを配った。今でもコーナカ(講中)に配る。
27	気賀の民俗一引佐郡細江町一	H1.3.31	静岡県教育委員会文化編さん室	静岡県静岡市追手町9番6号	気賀	55日	33日	「トリマイリ」鳥居だけお参りしてお米を撒いてくる。お婆さんが連れて氏神の堀江神社に行く。お婆はオガイソからもちもちた瓜畑のオブキ(着る)でカゲンハとかオハツキとかいう。男ども同じものだが、男の子のオブキにだけ背中に駄がつく。この駄の下から五色の糸で背中に縫い取りをする。背縫いにそって10cmくらい縫い、左側に同じく10cmくらい縫い、旗りの糸を印onくらい垂らす。昔はオハツキの上になおかつカンレイシャを掛けた。これをオカフといった。これには徳が強いであった。	「橋渡し」トリマイリの帰りに、橋を半分渡って引き返してくる儀礼もあった。	記述無	記述無	記述無	初めの誕生日に歩く子には、一升餅を背負わせる。

No.	資料名	発行年月日	発行	住所	地域	産明け(お宮参り)		鳥居参り(宮参り)	橋渡り・橋越し	インノコ	川関連	井戸関連	一年目の行事		
						男児	女児								
28	桑原の民 俗一田方 郡函南町 —	S62.2.15	静岡県教 育委員会 文化課員 史編さん 至	静岡県静 岡市追手 町9番6 号	桑原	100日	100日	「ヒヤとヒト工」誕生から百日目の赤ん ぼうをおふって熊野神社(オツツナサ) へお参りに行き、おさいせを上げた。 実家から長袂のヒトツミの着物が届いた。 祖母が赤んぼうをおふい、この着物をか け、前で紐を結んだ。この紐に辻子の人 がお祝いのお金を半纏に包んで水引きで 結んでくれた。この日にご飯を赤んぼ うの口の中に入れて食べさせた。	記述無	記述無	記述無	記述無	「一升餅」誕生前に歩く と、誕生日に一升餅を風 呂敷で斜めに背負わせた。 「こんなめでたいことはな い」といって近所に餅を 配った。		
29	沢田の民 俗一賀茂 郡西伊豆 町仁科一	S62.3.31	静岡県 同上	静岡県静 岡市追手 町9番6 号	沢田	101日	101日	「初宮参り」生児の正式な宮参りの 日。生児にヒヤチヤチンをかけて親 あるいは姑が抱いて佐渡神社にお参 りし、神主からお威いを受けて。餅 一重ねを神社に供え、赤飯を炊いて 親戚に配る。	記述無	記述無	記述無	記述無	「誕生祝」生児の初誕生の祝い。両 親が生児を抱いて佐渡神社にお参り する。この日はフチワイ(内祝い) で、身内で祝う。ザシキで生児に丸 餅を背負わせて歩かせる。神脚と仏 壇に重なる餅を供えて拜む。		
30	下田町の 民俗一 田市一	S63.3.31	静岡県 同上	静岡県静 岡市追手 町9番6 号	下田町	100日	100日	「お宮参り」婿と嫁とで赤子を八 幡神社へ連れて行った。町内の神様にお参 りすることはなかったが、家によつては 「御先祖さんへ連れていく」といって、檀那 寺の堂へ行く者かなりあったという。	「お宮参りをすれば橋渡って もいい」といって、それまで は橋を渡ってはならないとさ れた。お宮の橋が、橋の渡り 初めになるという。	記述無	記述無	記述無	記述無	「初誕生」初誕生前に、子供が歩き はじめると、一升餅を背負わせて、 尻餅をつかせる。「早く歩くと、早 く家出てくって、腰落ちつぽ」とい う意味だったという。	
31	杉の民俗 一周宮郡 春野町一	H1.3.31	静岡県 同上	静岡県静 岡市追手 町9番6 号	杉	33日 (30日・ 31日・ 50日)	23日 (38日)	「鳥居参り」一般に男児は33日目女児は33 日目という。ただし、男児は30日目、31日 目、30日目もよい、男女とも33日目に行っ たという家もある。マコオハ(姑)が生 児にオアギを着せ、はじめて氏神様にお参 りに連れて行く。このときはお母も一緒に たきあんとした格好で子を抱いて行く。そ して氏神様では境内には入らず鳥居の外で 拜んで、鳥居の柱の片側に洗米と實錢を供 えてくる。なお、高杉では氏神の本神様に 行く途中にもおたむちいっしょに併いてきて、 近所の子どもたちおたむちいっしょに併いてきて、 その實錢を拾ったものだったという。鳥居 参りの時はまっすぐ家に帰るものではなく、 鳥居では近所の家立ち寄つてその家の人 に子孫を抱いてもらってから帰った。立ち 寄った家からお祝いにおひねりをいただいた た。また、丁寧な家ではこの時に生児の髪 を剃って禿の禿といっしょに供拜した。	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	「一升米・一白餅」誕生 日前に歩き出すと、一升 米・一白餅をしよわせる。 誕生日にしよわせるともい うが、歩き出したところに行 く。一升米の場合、しよ い袋に米一升をいれて背 負わせ、一白餅の場合に はあらかじめアンモ(餅) を握いて丸餅にして神様 に供えたのち、風呂敷き に包んでわい掛け(脇掛 け)にした。

No.	資料名	発行年月日	発行所	住所	地域	産明け(お宮詣り)		鳥居参り(宮参り)	橋渡し・橋越し	インノコ	川関連	井戸関連	一年目の行事
						男児	女児						
32	雷戸の民俗 俗一伊東市一	S63.3.10	静岡県静岡市 静岡市東区 阿市追手町9番6号	雷戸	101日	101日	「初宮参り」ヒヤクヒトエにお宮参りする。イハイジヨから黒く産差と、その上にカンレイシヤで作る上着を着せた。これには帯中に三色か五色の色紙で縫い取りがしてあった。これは真ん中に七針、右に五針、左に三針(左右は、男女で違っていた)と縫う。お宮参りに行く道中、親戚の人や縁黨の人が早付けると、麻の紐にお金を通したものを産着に結び付けて祝ってくれた。これは長男長女の場合だけで、ほかはお参りはするがお祝いは貰わない。お宮参りには、おはあさんが抱いたり背負ったりして行く。父親は付いたり付かなかったりするが、母親は必ずついて行く。	記述無	記述無	記述無	記述無	「力餅」一才の時に歩くと、力餅といわれる一升餅を紅白二つに作り、肩に振り分けて背負わせた。餅ではなく米一升の家もある。	
33	原保の民俗 俗一田方郡伊豆町一	S62.3.31	静岡県静岡市 静岡市東区 阿市追手町9番6号	原保	101日	101日	「ヒヤクヒトエ」産後101日に目に赤飯をたき、丸山神社におまいりに行った。赤ん坊を抱いて行くのは誰でも良いという。	「橋渡し」お七夜の日、フルマイの前に橋渡しをした。カリオヤの奥さんが赤ん坊に嫁の婆家から贈られた玄米の着物をかけて、橋を渡り、川に下りて石の上にカハナイリを置いて井み、再び橋を渡って戻ってくる。橋渡しを行う橋は決まっているようであり、原保の中村の家々では瀬戸戸橋を渡った。しかし、葬式のハマオリと盆の精霊送りは段の橋で行ったといいい、行事によって橋を使い分けられている。	記述無	記述無	記述無	記述無	
34	裾野市史	H9.12.25	静岡県裾野市 裾野市佐野1069番地	裾野市	51日	51日	「鳥居参り」とい、産土様に参る。産んだ母親が子供を抱いて鳥居の前まで行き、鳥居をくぐらずに参ってくるのである。	鳥居参りの日を「橋渡し」ともい、この日までは外出も石橋を渡ることも禁じられていた。	子供が初めて外出する時は、鍋蓋の裏を子供の顔につけて出ると産物がとどつつかないといいた。(インノコ参院無)	記述無	記述無	記述無	
34	裾野市史	H9.12.25	静岡県裾野市 裾野市佐野1069番地	裾野市(須山)	記述無	記述無	ツハキの葉にオコフ(橋飯)を盛って鳥居の柱元に供えてくる。	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無

No.	資料名	発行年月日	発行	住所	地域	産明け(お宮詣り)		鳥居参り(宮参り)	橋渡り・橋越し	インノコ	川関連	井戸関連	一年目の行事
						男児	女児						
34	裾野市史	H9.12.25	裾野市史 編さん委 門委員会	静岡県裾 野市佐野 103番地	裾野市 (麦塚)	記述無	記述無	「ナナコトマイリ」稲荷など 七ヶ所に参加っておひねりを置 いてくる。	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無
35	新居町史	S60.3.25	新居町史 編さん委 員会	静岡県法 名郡新居 町	新居町	33日 (所によ り32日)	33日 (所によ り35日)	シュウトメが生児を抱いて近 くの氏神様にお参りする。初 参りという所もある。男の子 32日目、女の子35日目に行 う地区もあるが、33日目まで はお宮参りをしてはならない とされた。	お宮参り前に橋を渡っ てはいけな	おひねりに産婆さん を呼んで産婆の ために額には墨を つけたり、紅を塗っ てもらう。お宮参 りの日にケモノに 後を追われぬよう うに、額には糞墨 や紅をつけ、唇に は紅、頬にはお白 粉をつけた(イン ノコ表現)	記述無	産婦は井戸 水を汲んで はならない。	「初誕生」一歳の誕生月を迎え ると誕生餅ついて祝う。早く 歩けるようにと餅をひざのこ ろにつけてやるが、子供が嫌が ると、小さく丸餅にして子供に ぶつけた。その一方で、誕生 餅を背に背負せるところがあり、 この餅を背負えるような子は未 恐ろしいので、歩けないように わざと重い一升餅を背負わせる ともいった。
36	原田村誌	S29.8.1	原田村誌 刊行会	静岡県周 智郡森町 大原	原田村	50日	33日	産土神に参詣せしむ。これを 「鳥居参り」と云ふ。	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無
37	三島市誌	S34.5.31	三島市誌 編纂委員 会	静岡県三 島市	三島市	51日 (10日)	51日 (10日)	「ひやくひとえ」といって晴 衣をきせて氏神にお宮参りを し、氏子入りということにな る。もともと51日目にお宮参 りをしてそれ以後は鳥居をく ぐぐるとよいとしたところも ある。	記述無	「ひやくひとえ」 前に赤兎が家を 出るときには額 に鷹撃として、 墨をつけて外 出した。(イン ノコ表現)	記述無	記述無	誕生祝をし、米一升を背 負わせて歩かせる。誕生 前に立つ子は一升つきの 餅をしょわせて歩かせ、は いはいをする様になるとこ うりに入れておき「つぶら」 は使用しない。
38	焼津市誌 (下巻)	S46.11.1	焼津市誌 下巻編纂 委員会	静岡県焼 津市新家 63番地	焼津市 (五ヶ堰 之内・坂 本・横須 賀など)	33日	21日	「宮参り」「ウブギをお祝い する」ともい、実家でくれ たウブギを着せてお参りする (坂本)	記述無	記述無	記述無	記述無	タツガができたリアンヨが できるようになった子に餅 をしょわせ、実家や仲人 に餅を配った(坂本)
38	焼津市誌 (下巻)	S46.11.1	焼津市誌 下巻編纂 委員会	静岡県焼 津市新家 63番地	焼津市 (伏見寺・ 北浜・保 福島)	33日	28日	記述無	家からお宮までの途中に橋が あると渡る前に川の神様(水 神様)にあやまちがないよう にとお祈りをしてから渡った (北浜) お宮へ行く途中は橋 をこえてはいけな(大覺寺)	記述無	記述無	記述無	赤飯を炊き近所の子供や親 戚を呼んで紅白の一升餅を その子にしょわせ、わざと 転ばせする。あまり早く歩き だすと親の精を吸いこって しまうからだという(北浜)

No.	資料名	発行年月日	発行	住所	地域	産明け(お宮詣り)		鳥居参り(宮参り)	橋渡し・橋越し	インノコ	川関連	井戸関連	一年目の行事
						男児	女児						
38	焼津市誌	S46.11.1	焼津市誌 下巻編集 委員会	静岡県焼津市新築 63番地	焼津市 (花沢・惣 右衛門)	33日	33日	「宮参り」お宮の前の敷石の上 に寝かせて泣かせる(花沢)	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無
39	磐田の民 俗	S59.3.31	磐田市誌 編集委員 会	静岡県 磐田市	磐田市	55日	記述無	「お宮まいり」生児にとつて は父方の氏神にゆく。	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無
39	磐田の民 俗	S59.3.31	磐田市 同上	静岡県 磐田市	磐田市 (天竜)	記述無	記述無	宮参りを鳥居参りといい、最 初は鳥居のところで拜んだ。	鳥居参りの後、民家に近 いチイガワ(小さい川) の橋にもおまいりした。	記述無	記述無	記述無	記述無
39	磐田の民 俗	S59.3.31	磐田市 同上	静岡県 磐田市	磐田市 (前野)	記述無	記述無	父方の祖母が抱いてゆき、母親はそ の後からついて行った。宮参りの帰 りには母親のオサイジョへ参り扱は 屋敷飯をよばれ、母と子は二泊位泊 まって、実家の母に送られて帰って きた。宮まいりには隣近所の子供が ついてくるので、その子供達に菓子 や、小銭をまいりた。	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無
39	磐田の民 俗	S59.3.31	磐田市 同上	静岡県 磐田市	磐田市 (民付)	記述無	記述無	記述無	「ナナコトマイり」七つの橋 を渡ると、子供が巨日坂を病 まぬと伝えて、中川・加茂川 などの橋を七ヶ所渡った。	記述無	記述無	記述無	記述無
39	磐田の民 俗	S59.3.31	磐田市 同上	静岡県 磐田市	磐田市 (向笠)	記述無	記述無	オサイジョから贈られた産着を 着せて、近所に小学校5・6年 生の子供(女)がいわれば、その 子におぶって行ってもらった。	宮参りにゆく途中、橋 を渡る時は橋から落ち ぬようにと、金をまい りておまいりした。	記述無	記述無	記述無	記述無
40	阿智村誌	S59.3.20	阿智村誌 刊行委員 会	長野県下 伊那郡阿 智村役場 内	阿智村	33日	28日	「初宮参り」嫁の実家から出 産した場合は産屋明けが過ぎ ると、実家の母親が付き添っ て帰って来た。家では赤飯を 炊いてお祝いを貰った親戚、 知人に配り内祝いをする。こ の日に氏神様に参詣する。こ のとき母の実家から贈られた 産着を子に着せて母親と祖母 の三人でお参りする。	記述無	記述無	記述無	記述無	「誕生祝い」里の親、仲人、親 戚を招いて行う。餅を搗いて祝 餅といって風呂敷きに包んで子 供に背負わせる。「加餅」とい って小さい餅を子供に投げつけた。 「ひだす」といって、子供を 大箕に入れ、「シイナは飛んで け実は残れ」と言いながら厄払 いをする。又算盤、筆、ものさ し、本などをならべて子供に選 ばせその手の将来を占った。

No.	資料名	発行年月日	発行	住所	地域	産明け(お宮参り)		鳥居参り(宮参り)	橋渡り・橋越し	インノコ	川関連	井戸関連	一年目の行事	
						男児	女児							
41	大鹿村誌	S59.1.10	大鹿村誌 刊行委員会	長野県下 伊那郡大 鹿村大字 大河原 362	大河原	30日	30日	生後30日目ウブヤアケで、初子の時は、実家の神社に宮参りをしてから婿家に行く。この日は赤飯・御頭付きなどで祝い、組合集・兄弟・お仲間を呼ぶ。ただし、お宮参りの習俗は戦前までなく、最近行われるようになったものがある。	記述無	生後3日目に子供に化粧させ、その額に赤い星をつけた。(インノコ表現無)	記述無	記述無	カクゴ(小豆を入れた餅)を作り、器皿にくぼるほか、仲人・伯母・同僚を呼んで祝う。この時誕生まで歩いた子どもにはタンジョウモチ(一升モチ)を背負わせる。また子どもを真に入れて、「悪いところはすべて、良い所はこの札」という意味の贈り言をいひながらふる。カクモチ(カクモチの巻)を子どもの頭にのせて、「良くなれ、丈夫になれ」という。	
41	大鹿村誌	S59.1.10	大鹿村誌 刊行委員会	長野県下 伊那郡大 鹿村大字 大河原 362	鹿塩 (入沢井)	33日	33日	「ウブヤマイリ」産婦の実家の人を呼んでお祝いをする。この時には、兄弟・お仲間(チュウニン)・名づけ親を招き、特別に子供の着も用意して祝う。お仲人の妻が子供を抱き、オヒネリを持参して、オプスナ様(守護)・護守の順に参りに行く。御産見に来た家には赤飯を配る。	記述無	記述無	記述無	記述無	「タンジョウモチ」飯糰・巻蔵を呼び、白い丸い餅を作り、赤ん坊にそれを背負わせる。仲人の妻が、子供を背の中にいれ、「シヨウミはのこって、シイナは舞ってけ」、あるいは「カスはいってしまえ、ミは残れ」と唱えて糰を振る。	
41	大鹿村誌	S59.1.10	大鹿村誌 刊行委員会	長野県下 伊那郡大 鹿村大字 大河原362	鹿塩 (塩川)	33日	21日	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無
41	大鹿村誌	S59.1.10	大鹿村誌 刊行委員会	長野県下 伊那郡大 鹿村大字 大河原362	鹿塩 (西)	33日	30日	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無
42	大下條村誌	T5.9.5	大下條村誌 刊行会	長野県下 伊那郡大 下條村	大下條村	33日	33日	「産屋明け」産後33日目に産婦生児、共に身を浄め産神に参詣す。	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	小児生れて一週年目を誕生生日と称し、餅を揚げて祝う。
43	清内路村誌	S57.3.20	清内路村誌 刊行会	長野県下 伊那郡清 内路村役 場内	清内路村	33日	28日	新しい産着を着せられ、お宮参りを済ませる。お産見舞をもらった家へ赤飯に両天の葉を上げ、コマ塩を白紙に祝い包みにして配る。	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	「誕生祝い」子供に誕生餅を背負わせる。筆や算盤・本・物指等の内、好きな物をとらせる。大きな皮算に入れてある真似をする。
44	智里村誌	S9.12.1	智里村青 年会	長野県下 伊那郡智 里村 718 番地	智里村	32日	28日	「産屋明け」産婦生児共に身を清め、産土神に参詣して赤飯を作って、産屋中世話になった所へ配る習慣であった。	記述無	記述無	記述無	記述無	記述無	「誕生祝い」生後一ヶ月年目を誕生生日と称し近親を招いて、小宴を張り餅を揚げて祝う。

No.	資料名	発行年月日	発行	住所	地域	産明け(お宮詣り)		鳥居参り(宮参り)	橋渡り・橋越し	インノコ	川関連	井戸関連	一年目の行事
						男児	女児						
45	平谷村誌	H8.6.11	平谷村誌 刊行委員 会	長野県下 伊那郡平 谷村役場 内	平谷村	33日	28日	「産屋明け」初めてのお宮参りを産屋明けと言った。男の子は33日目、女の子は28日目に初めて外に出されることになる。	記述無	記述無	記述無	記述無	「誕生祝い」子供を眞の中に入れて座せたり、直径10cmほどの大福餅を数個重箱に入れて背負わせたりした。筆・そろばん・物指しのうち、どれを取るかでその子の能力を占ったりした。
46	上片桐村誌	S40.7.30	上片桐村誌 編集委員 会	長野県下 伊那郡松 川町大字 上片桐	上片桐村	33日	28日	「お宮詣り」里から贈られた着物を子供に着せ、お仲人か姉が背負って氏神様へお詣りする。産婦は75日間「血ふく」といってお詣りに行かなかった。	記述無	記述無	記述無	記述無	「誕生祝い」近親者およびお仲人を招き、餅をつく。子供に鏡餅を背負わせ、眞の中に入れてひだすまねをする。さらに男の子なら算盤・筆・本・鎌、女の子なら本・裁縫箱・物産等を並べて置き、最初に子供が持った物によって将来を占った。
47	大河内の 民俗	S48.7.20	天竜村 教育委員 会	長野県 濃路	大河内	40日	28日～ 30日	特別な儀式はしないが、産屋明けの日に母親が抱いて池大神社へ行き、おひねり・お賽銭をあげてきた。	橋へはお膳の上におひねりや酒などをそそぎおいて、子供を抱いて廻り、帰ってくれば、あとどこへつれて行ってでもよいとされ、まず道産神様をおかみに行った。	七夜に子供の頭に鷹よけとしておしめをのせ、薬に灰をつけて母親が抱き橋のところへ行く。	みもちの間、川の水に逆らった方向に躓かしてはいけない。	記述無	眞の中に子供をすえておき、そこへ大福餅を投げてやったり、ますの中に大福餅を置いてやると丈夫な子は拾ってかみつくといい。餅を背中にしよわせるということはないが、子供の頭の上にのせる。